

現状の課題

■観光

北陸新幹線、JR 高山線、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道が乗り入れ、黒部立山アルペンルートの玄関口である富山駅は、対象地域の北部に位置する。路面電車が市内を回遊し利便性が高い一方で、中心市街地の空洞化が見られるため、駅から街なかへ人々が回遊したくなる魅力的なエリア形成が求められる。

■市民生活

富山駅周辺には高層マンションの開発も進み、中心市街地居住も今後さらに進展していくと考えられる一方で、「まちで暮らす」人たちの生活、災害時など万が一に備えたまちづくりが計画的に進められているとは言い難い。

そのため、①自然豊かな富山を感じる屋外空間の演出 ②路面電車を活用した街なか回遊への誘導 ③市民ネットワークとコミュニティ活動支援 エリアづくりを提案する。

①自然豊かな富山を感じる屋外空間の演出

- ・木をふんだんに使うことを意識し、自然と共に生きる富山を体感できる。
- ・提案のひとつである「つな木」は、用途に応じてフレキシブルに組み立てられることから、再利用が容易で、環境にやさしい素材。廃材も利用して木材循環を促す。

②路面電車を活用した街なか回遊への誘導

- ・ビエンナーレなどの定期的な催事を核として、日常的に、フレキシブルに「何かが起こっている」多目的広場を整備。
- ・恒久的な建物ではなく、あえて「広場」にすることで、より多様性のあるエリアづくりを、低コストで実現することを目指す。
- ・ある時は「お祭り広場」、ある時は「世界の料理を楽しめるフードトラック集結広場」、ある時は「誰でも音楽祭」、ある時は「とやまのフリーマーケット」市民や外部の人が交流し、回遊したくなる様々なイベントを、市民主導で開催できる「場」を提供し、同時に「行ってみたいまち」への魅力づくりを実現。
- ・富山県庁1階の開放
- ・広場と仮設建造物だけでなく、県庁1階を回遊導線と考え、富山城址、松川公園を含めた回遊エリアをつくる。

③市民ネットワークとコミュニティ活動支援

- ・自家発電装置を含めた給電設備、上下水道、非常時にも使える公衆トイレ、かまどにもできるベンチなど、万が一の時にも使えるハードを計画的に整備する。
- ・定期的なイベントを開催できる市民ネットワークの構築、日頃の頑張りの成果をおひろめできる場、公園の日常的な維持管理がコミュニティづくりに役立てる仕組みなど、「集まれる場所」ができることでつながるコミュニティづくりを支援する。

あえてモノやハコを作らず、「何かができる場所」を作ることで、ハードだけではなく、人の心がつながる場づくりをすすめる。



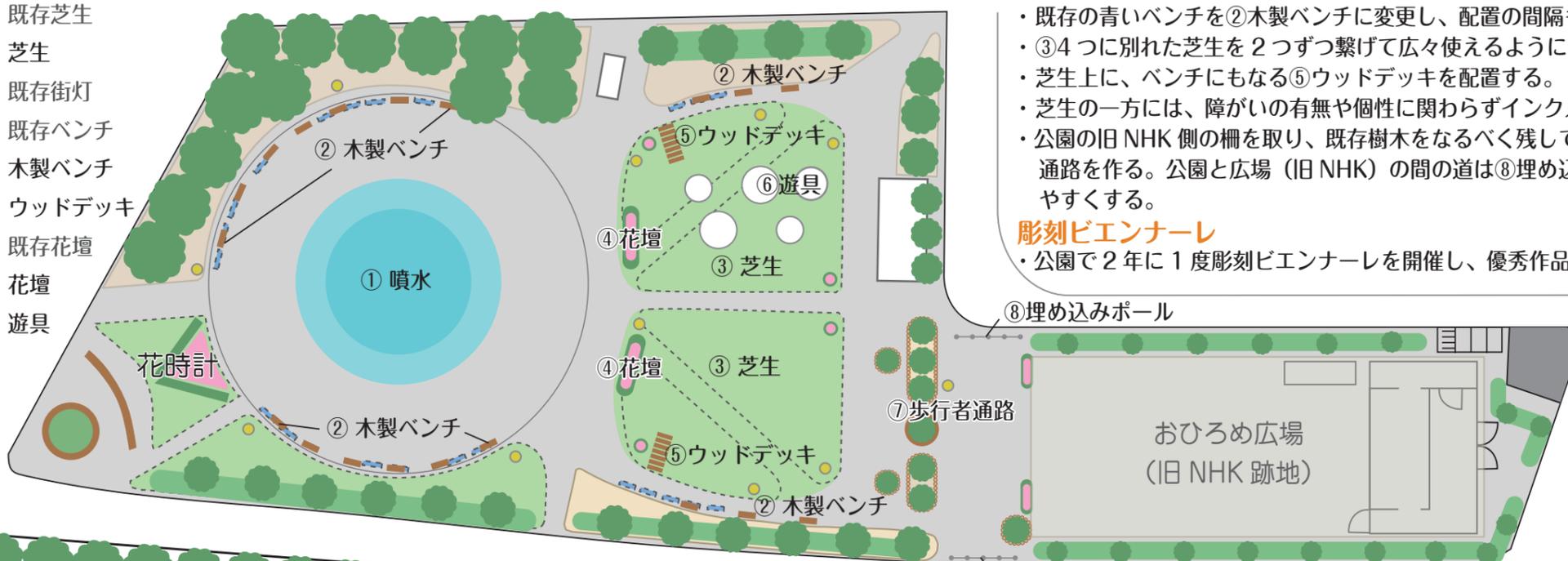
県庁付近を中心に、県庁前駅～桜橋駅の間を回遊したくなる場にする

県庁前公園を一部改修・2年に1度彫刻ビエンナーレを開催

【県庁前公園・県庁と県民会館駐車場の利用方法】

● 樹木 (公園・県庁・県民会館は既存樹木)

- 既存芝生
- 芝生
- 既存街灯
- 既存ベンチ
- 木製ベンチ
- ウッドデッキ
- 既存花壇
- 花壇
- 遊具



公園の一部を改修 (なるべく既存の物を利用)

- ・①噴水の壁を、内側と外側で高さを2段階にし、外側の壁を低くして水遊びができるように改修する。
- ・既存の青いベンチを②木製ベンチに変更し、配置の間隔も再検討する。一部は防災ベンチに変更し、防災機能を向上させる。
- ・③4つに別れた芝生を2つずつ繋げて広々使えるように改修し、④噴水側に花壇を設ける (花壇越しに噴水を撮れば写真映えもする)。
- ・芝生上に、ベンチにもなる⑤ウッドデッキを配置する。
- ・芝生的一方には、障がいの有無や個性に関わらずインクルーシブに遊べる⑥遊具を配置 (イベントにより倉庫に収納)。
- ・公園の旧 NHK 側の柵を取り、既存樹木をなるべく残して、木製柵やリング状ベンチ等で木の根を痛めないよう囲いをして⑦歩行者通路を作る。公園と広場 (旧 NHK) の間の道は⑧埋め込みポールを設置し、イベント出店等の車両以外は進入禁止にして、回遊しやすくする。

彫刻ビエンナーレ

- ・公園で2年に1度彫刻ビエンナーレを開催し、優秀作品の展示スペースとする。※イメージは次ページに表記

① 噴水イメージ



⑥ 遊具イメージ



(参考：株式会社ジャクエツ <https://www.jakuets.co.jp/> 第17回キッズデザイン賞 審査委員長特別賞 <https://www.jakuets.co.jp/news/3608/>)

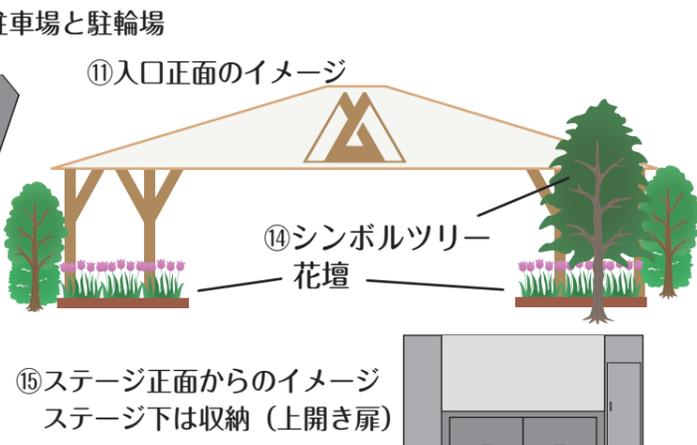
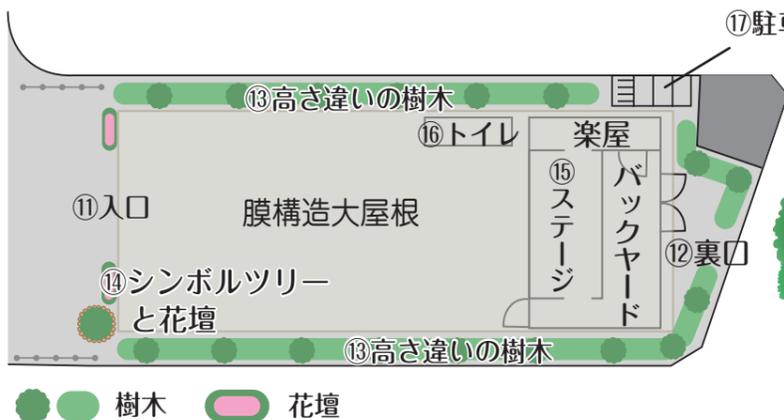
県庁の駐車場の一部を職員用⑨2階建立体駐車場にし、⑩駐輪場も設けて、公園やおひろめ広場 (旧 NHK 跡地) の利用者は、現状の平面駐車場と駐輪場を利用できるようにする。

県庁前公園の芝生からおひろめ広場（旧 NHK 富山放送会館跡地）
入口付近と彫刻ビエンナーレイメージ



旧 NHK 富山放送会館跡地を半屋外型イベントスペース「おひろめ広場」に！

【旧 NHK 富山放送会館跡地の利用方法】



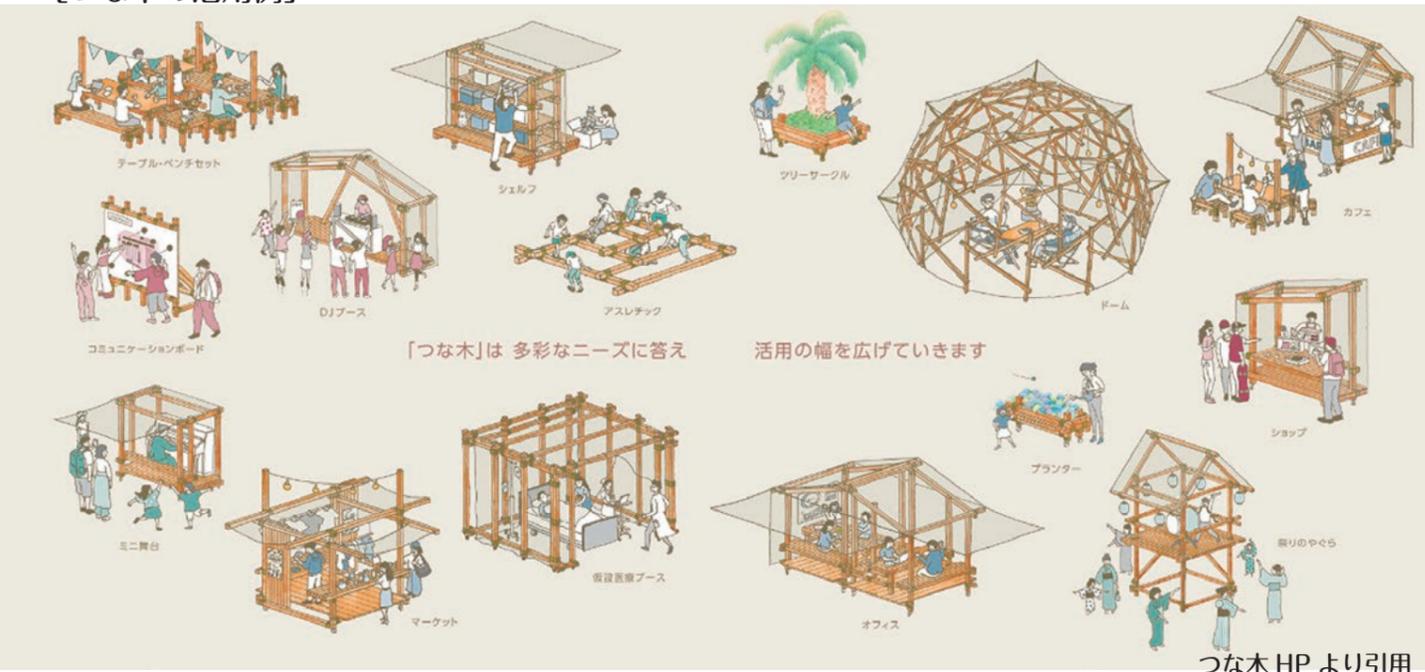
木材と膜構造大屋根付きおひろめ広場

- ・膜構造大屋根の①入口②裏口の正面には木製又はプリントで県のロゴマーク入り。木材は県内でリサイクルできる資材や、大阪万博の大屋根リングの再利用等、SDG s な資材も検討する。
- ・外周には、⑬高さ違いの樹木を配置し、入口付近に⑭シンボルツリー（立山杉）と花壇（チューリップ・他）を配置。
- ・東側に⑮ステージを設け、バックヤードやステージ下は倉庫の役割をする。
- ・1ヶ所⑯トイレを設置する。
- ・ステージ横に、車と自転車数台分の⑰駐車場と駐輪場（基本的にはイベント出演者用）を設ける。

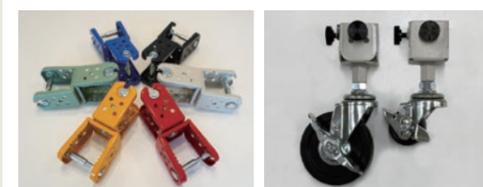
倉庫内収納物の例

- ・防災具や木材（「つな木」のような多様に利用できる物）を収納し、イベントに応じて組み立てて使用。（参考：つな木 <https://tsunagi-wood.jp/>）テーブルやブースを作ったり、柵を作りドッグランにしたり、一部はベンチとして常用したり、防災時に使用するなど、県庁前公園と連携して活用する。可能なら県内でリサイクルできる資材等も検討する。
- 「つな木」の使用方法は、防災訓練やワークショップを定期的に行い、近隣住民に組み立て方のレクチャーを行う。

【つな木の活用例】



45mm 角の木材を組み合わせて自由な発想で空間を生み出せる「つな木」



クランプ金具 6色 カラーバリエーション
可能性を広げる キャスター

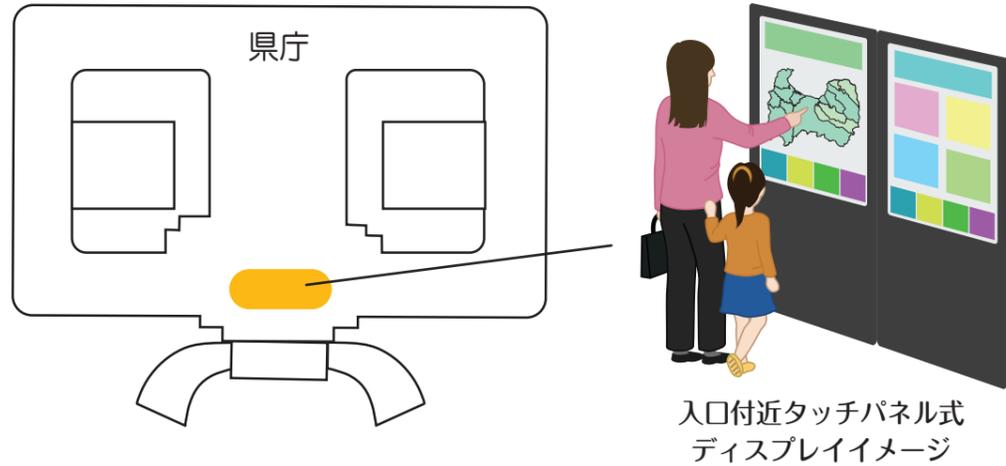
- ・ステージ下収納には⑯遊具や、可動できるスケボーセクション・ランプ等を入れておき、イベントが無い日は屋根付きスケボーパークとして活用する事もできる。（参考 1211 Ramp Lab : <https://1211ramplab.com/>）



1211 Ramp Lab HP より引用

県庁1階フロアを解放し、各市のアピール部屋に！【県庁の利用方法】

- ・県庁1階フロアは郵便局とATMを残し、各部屋を各市の部屋にして、伝統工芸品や特産品、特徴ある場所のジオラマ、祭りの山車を模型にしたり3Dで見れる映像化等して展示し、各市の特色をアピールする。
- ・1部屋は工芸品等のワークショップ・体験コーナーとし、物産品・お土産コーナーも設ける。
- ・1階入り口付近に、タッチパネル式サイネージディスプレイを配置し、県内や県庁内、イベント案内等に活用する。



人気の観光地をジオラマ化



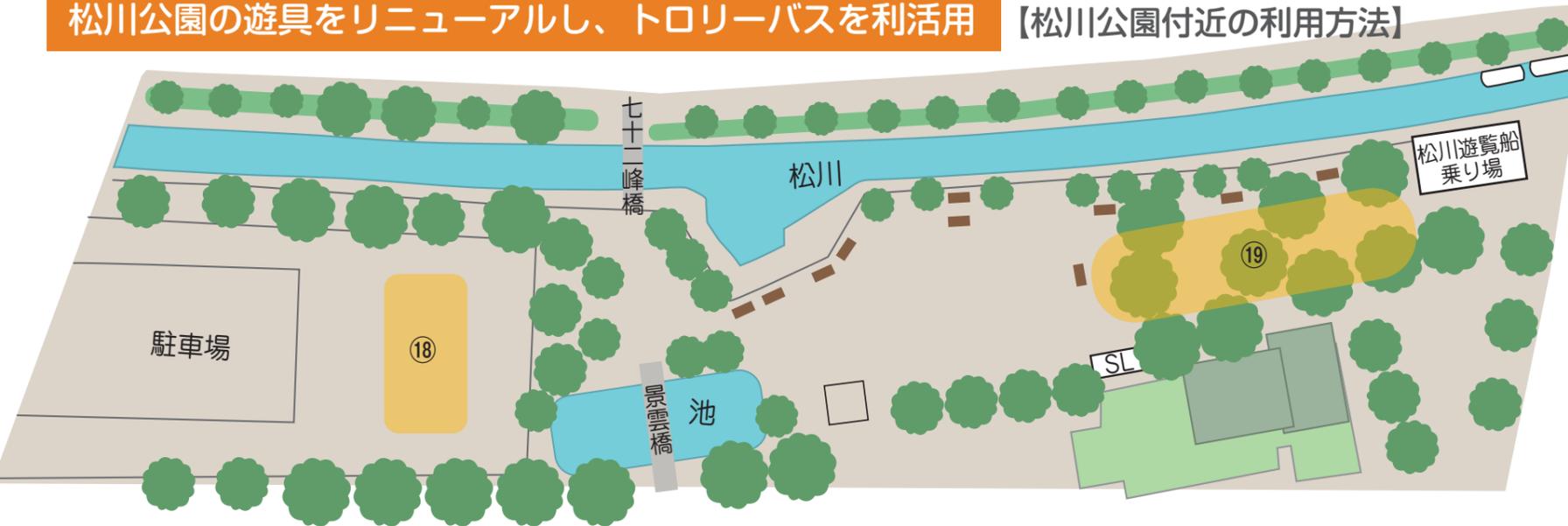
祭りの山車を模型又は3D映像化



伝統工芸の展示とワークショップ



松川公園の遊具をリニューアルし、トロリーバスを利活用【松川公園付近の利用方法】



松川公園の遊具をリニューアル

- ・SL付近の金属製遊具(左図の⑱)を木製の汽車型遊具や山型の滑り台、木製の防災機能付き遊具など温かみがある物にして、子どもが親しめる空間づくりを目指す。
 - ・ベンチの一部を防災ベンチにする等、災害に備えた安心できる場にする。
- ※いずれも、できるだけ県内の企業や県内の資材を優先に検討する。



参考：株式会社犀工房 HP より引用
<https://sai-kobo.co.jp/product/wooden/2791/>



参考：株式会社コトブキ HP より引用
<https://townscape.kotobuki.co.jp/>



トロリーバスを利活用

- ・松川公園の駐車場脇の広場(上図の⑱)に、2024年12月に廃止となるトロリーバスを1~数台配置し、利活用する。
- 例：カフェ・足湯・休憩室、1台は倉庫にして椅子やテーブルを収納し、天気の良い日は外で利用する。
- ・この場や遊覧船利用者には、県庁内や近隣の商店街等で利用できる割引クーポンを発行し、回遊の訴求をする。



参考：株式会社ママスクー(本社：富山県) HP より引用
<https://mamasky.jp/item/2214/information>

防災かまどベンチの例



参考：信建工業株式会社 HP より引用
<https://www.shinken-kogyo.co.jp/>